

令和元年度 第2回土木計画学委員会幹事会 議事録

文責：松永

日時：9月3日（火）18:30～20:30

会場：高松センタービル 205号会議室

■出席者

委員長：藤原章正（広島大）

副委員長：白水靖郎（中央復権）

幹事長：藤井聡（京都大）

学術小委員会：紀伊雅紀（香川大）

秋大会開催校幹事：中川大（富山大、代理・猪井）

委員兼幹事：紀伊雅紀（香川大）、栗原剛（東洋大）、神田佑亮（呉高専）、稲垣具志（日本大）、松永千晶（九州大）、田中皓介（東京理科大）、小池淳司（神戸大）、松本浩和（地域未来研）、泊尚志（東北工大）

■議事（案）（敬称略）

1. 開会

- ✓ 委員長挨拶：ワンデーセミナーも100回を超え、土木計画学のありようを検討する1年としたい。
- ✓ 自己紹介（新副委員長、新幹事長、幹事挨拶）

2. 学術小委員会報告（資料2）：土井（委員長）、紀伊

- 紀伊委員より1. D3特集号 Vol.36の査読状況、2. D3特集号 Vol.37の査読状況、3. 2019年度スケジュールについて説明がなされた。
- D3特集号 Vol.37は春大会・秋大会内容入れ替えに伴うもののため、今年のみスケジュール。
- 移行期ながら円滑に進んでいるとの報告。

3. 運営小委員会報告：土木計画学研究発表会の準備について

- ✓ 大会運営委員会報告
 - 特に報告なし。
- ✓ 秋大会準備状況（資料3-1および別紙）：中川（開催校幹事）
 - 代理：猪井先生から1. 開催日・開催場所、2. スケジュール案、3. セッション、発表応募状況、4. その他、及び別紙にて1. スケジュール・会場の検討、2. 実行委員会について説明。
 - 今年度からこれまでの春大会・秋大会の内容が逆転し、富山大は従来の春大会の企画提案型

- 春・秋大会逆転について会員の認知の強化と、今大会の開催日程（3日間）や市町村会場などはイレギュラーな対応であることの説明が必要との意見があった。
 - 市町村会場の調整については概ね地元側ので了承済み
 - 市町村会場は富山駅から約40分の範囲（例：朝9時開始の場合は8時に富山駅を出発すれば間に合う範囲）
 - 参加料の収受の観点から受付の場所について要検討（富山駅が有力、学会からは1か所にしてほしいとの意見）との説明に対し、アナウンスが重要であることや、特に富山駅を利用しない市町村会場参加者への対応が必要との恋県があった。
 - 会場が複数ある点についてはアプリでもフォローする。
 - 大会のフォーマットは春大会と秋大会で同一なのか別なのか確認してほしいとの意見あり。
 - 委員会・幹事会活動：従来の春大会：幹事会（初日）、翌日ランチョン（全体報告）
 - 従来の秋大会：初日に親委員会、
 - なお、昨年までと同様に秋大会は三日間、春大会は二日間開催、投稿論文の内容（企画論文中心か一般論文中心か等）は春と秋が逆になるが、それ以外の会議フォーマットは、春・秋ともに昨年までと基本的に同様である。
- ✓ 春大会準備状況（資料4）：土井（開催校幹事）
- 代理：藤井幹事長から、1. 日程、2. 会場、3. 使用施設、4. 開催校委員、5. 今後の予定、6. 捕捉について説明があった。
 - 従来の秋大会に相当するものだが、2日間開催でよいのかとの質問に対し、運営委員会経験のある幹事より良いとの回答があった。

4. 平成30年度幹事担当タスクの検討状況報告（○は主担当、*は新メンバー）

- 1) 活動評価・中期目標対応（資料なし）：稲垣○（暫定）、神田、松本*、泊*
 - 稲垣委員より昨年度内容の引継ぎができていないので、確認の上対応するとの報告があった。
- 2) 本委員会・全国大会対応（資料なし）：紀伊、栗原○、田中*
 - 栗原委員より昨年度は谷口（綾）委員と対応したが、特に活動がなかったため、引き継ぎ事項もなしとの報告があった。
 - 全国大会の第IV部門活性化のアイデア出し（今年のセッションのようなもの）などの対応があると考えられるが、本委員会のタスクについては再度確認する。
 - 今年のセッションについては、今回の感触を確かめて、次年度以降検討することとなった。

- 3) 研究小委員会对応（資料なし）：岩田○、神田、松田*、松本*
- 神田委員より、主な業務は春・秋大会時の委員会兼幹事会における研究小委員会の承認依頼、その他事務処理との報告。
- 4) HP 担当（資料 5）：吉田○、稲垣、松永、泊*
- 1. 新 HP への完全移行（現行 HP の閉鎖）について、2. 現行サーバーの廃止に向けた作業と ip-ml アドレスの変更について報告があった。
 - 研究小委員会の新 HP の更新作業については、各小委員会で対応を決めてもらうこととなった。
- 5) 国際セミナー（資料 9）：岩田、松永、SCHMOECKER*○
- 今年度登録分の国際セミナーについて説明がなされた。
 - 国際セミナーと委員会の関係（委員会主導で行うことはないか、また、次期幹事の紹介などセミナー主催側の委員会へのコミットの可能性など）について検討してほしいとの意見があった。
- 6) 国際センター・出版委員会担当（資料なし）：稲垣、SCHMOECKER*
- 稲垣委員から、昨年度は稲垣委員が出版委員会、眞田委員が国際センター（土木学会国際センターの対応業務）と分担していたとの報告があった。
 - 今年度の土木学会国際センター（委員会あり、窓口業務）対応については SCHMOECKER 先生に担当頂く方向で進めることとなった。
 - 出版委員会については、土木学会の委員会の対応が業務。
 - 年に 6 回委員会、その他年に 6～7 回会議があり、各分野からの出版企画などを検討・審査を行う。
 - 出版については補助金が付く可能性がある。
 - これまでの第 IV 部門関連は土木計画ハンドブック、四段階推定法、海外プロジェクト評価方法、均衡配分の本などがある。
 - 研究小委員会から企画するようにアナウンスしては？との意見があった。
 - 計画系は示方書ビジネスが成立しにくい（交通工学は別）が、将来的には計画学の教育の視点で企画が必要では、との意見があった。
- 7) ワンデイセミナー・シンポジウム（資料 7、8）：岩田○、吉田、小池*、泊*
- 代理で藤井幹事長より、1. 開催状況報告（最近 1 年分程度：2017 年 6 月～現在）とワンデーセミナー 100 回記念シンポジウム（企画案）について説明があった。
 - ワンデーセミナー（資料 8）について以下の報告や意見があった。
 - 2018 年度は委員会主催で 2 回シンポを実施した関係で例年より多い。
 - 委員会企画として地域開催のシンポジウムを実施し、地域では行われにくいインフラ整備に関するまとまった議論を発信した点で貢献があった。
 - 今年度は現時点で申請がないため、アナウンスをしては？

- 学会活動の一つである「共有知の蓄積」（出版、セミナーなどによる）のため、これまで今日的なテーマに対して実践と学術的議論の場を提供し、昨年度 100 回を迎えた。記念として今年度はワンデーシンポジウムを開催（案は資料 7）
- 研究小委員会にはワンデーセミナーでの成果発表を奨励する。
- ワンデーシンポジウム（100 回記念、資料 7）についてタイトルや趣旨、プログラム（案）、日程、場所及び過去のワンデーセミナーのリストについて説明がなされ、それに対して以下の報告や意見があった。
 - 開催時期は準備などを考慮して、昨年度予定した時期より遅らせることとし、今年度 12～2 月を想定。
 - 過去のワンデーセミナーのリストは、土木計画学の歩みを振り返るのによい資料であり、重要な閲覧性のあるもの。
 - プログラムの 2. 講演：「土木計画学」創立時の議論を振り返る、の講師として、委員会創立時の先生に講演、あるいはビデオ撮影によるヒアリングを予定しているが、候補としてどなたが挙げられるか（吉川先生、天野先生）？という質問に対し、まずは候補選定のためのヒアリング（中村先生、森地先生、黒川先生、IBS など）を行うこととなった。
 - 土木計画学=**infrastructure planning & management** となった経緯や、創立時の関係者については、土木計画学研究会設立趣旨（学会誌用に作成？）があるはずなので確認しては、という意見があった
→会議後に小池委員より設立趣旨の資料提供がなされた。
 - シンポジウムの内容については、計画学の変遷（歴史的視点）：学会研究（まさに研究）として重要という意見や、土木学会論文集 H（教育分野）の岩倉先生の論文が参考になるという意見があった。
→会議後に神田委員より岩倉先生の論文情報が提供された。

8) 全国大会研究討論会（資料なし）：松永、小池*

- 全国大会での研究討論会は隔年開催で今年はないため、特に報告事項はない。

9) 総務担当（資料なし）：栗原、神田、田中*

- 秋大会のチュートリアルセッションについて、これまでは主催側が対応していたが、次回から委員会対応となることが報告された。

10) 財務 WG 担当（資料 6）：藤井○、松本*

- 今年度の予算執行計画（案）に関して、特に以下の点について説明がなされた。
 - 会員数減少に伴い予算が年々縮小方向にある。
 - HP 関連予算は英語対応がなくなったため昨年度より減額となった。
 - セミナー・シンポジウム事業費については 100 回記念シンポジウム開催費を計上している。

- 支出合計の昨年度との差額については予備費（災害調査）が昨年は執行されなかったため。
- 予備費については、災害対応の状況に応じて他への支出を予定している。

11) 防災担当（資料なし）：藤井○、松田*

- 藤原委員長から、マニュアル運用開始後に発生した山形・新潟地震、鹿児島豪雨、台風 10 号について各地担当へ連絡し、社会インフラシステムの破断など土木計画学的視点による調査の必要性を確認したが、いずれも大規模な被害はなく、マスコミや他の調査結果で十分との報告がなされた。
- 九州北部豪雨（油流出）については、油の被害が重要かどうか、島谷先生の支援団活動の把握状況、水門の閉鎖（マネジメントの問題か？）について報告と審議がなされ、今のところは様子見となった。
- 神田委員より、佐賀の九州道の JCT が接している部分の土砂災害で復旧までに 3～4 か月かかるが、鉄道は運行しているため、何とかなっているとの報告があった。昨年の広島の高雨災害からのレッスンをまとめたものと照合し、調査以外の情報確認などの方法の検討を行う。

12) 幹事長補佐（資料なし）：栗原、田中*

- 特に報告なし。

5. その他：

- 令和 2 年度秋大会について、信州大学で開催予定と藤原委員長から説明があった。日程については、11 月 14・15 日か 21～23 日で現在調整中。
- 資料 10 の 3 学会連携の取り組みについて、企画等の紹介がなされた。詳細については後ほど毛利元副委員長から説明する。
- 今後の土木計画学研究発表会において全体セッション（昨年は会場の都合で 1 セッション）開催についての議論を継続することが確認された。対象としては次の大阪大学での春大会以降を想定。

以上